

κατηχισμός

カテキズム

知っておきたいキリスト教のことば (39)

カテキズム かてきずむ

カテキズムとは、キリスト教の教理指導書のことです。しかし、日本聖公会ではそれほど使う言葉ではありません。また一般的にもほとんど用いないでしょう。

カテキズムの起源はユダヤ教にあるといわれます。過越祭のときに、なぜこのような祭りをおこなうのか、その意味を子どもは尋ねます。それに対して親は、出エジプトの話、そして自分たちと神さまとの関係を教えるのです。それが元々のカテキズムです。

そしてイエス様の死後、初代教会の時代になると、洗礼志願者にキリスト教の信仰の内容を伝えるものとして、問答形式のカテキズムが作られていきます。その後中世初期になり、幼児洗礼がおこなわれるようになると、カテキズムは堅信式の前の学びの中で用いられるようになりました。

宗教改革以降、それぞれの教派はその教理を明確にするために、独自のカテキズムを作っていきます。マルティン・ルターは大教理問答・小教理問答を、改革派はハイデルベルグ信仰問答を、そして長老派はウェストミンスター教理問答を用いて、その教派の信仰を明確にしていくのです。

英国聖公会では、「39 箇条」という教義要項が 1563 年に議会で承認され、出版されました。しかしこれは全ての聖公会の教会に同意を義務付けるものではなく、日本聖公会は設立のときに 39 箇条を採用しませんでした。

では日本聖公会の「カテキズム」は何でしょうか。それは祈祷書 258～266 頁にある「教会問答」です。ここをしっかりと学ぶことは、わたしたちの信仰を確かめる上で、とても大切なことです。教会やグループで勉強会などをしてみてはいかがでしょうか。

次回は「神の義」です。お楽しみに。



「宦官の洗礼」

レンブラント・ファン・レイン

(1606～1669 年)

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

(使徒言行録 8 章 35 節)

